



Problem



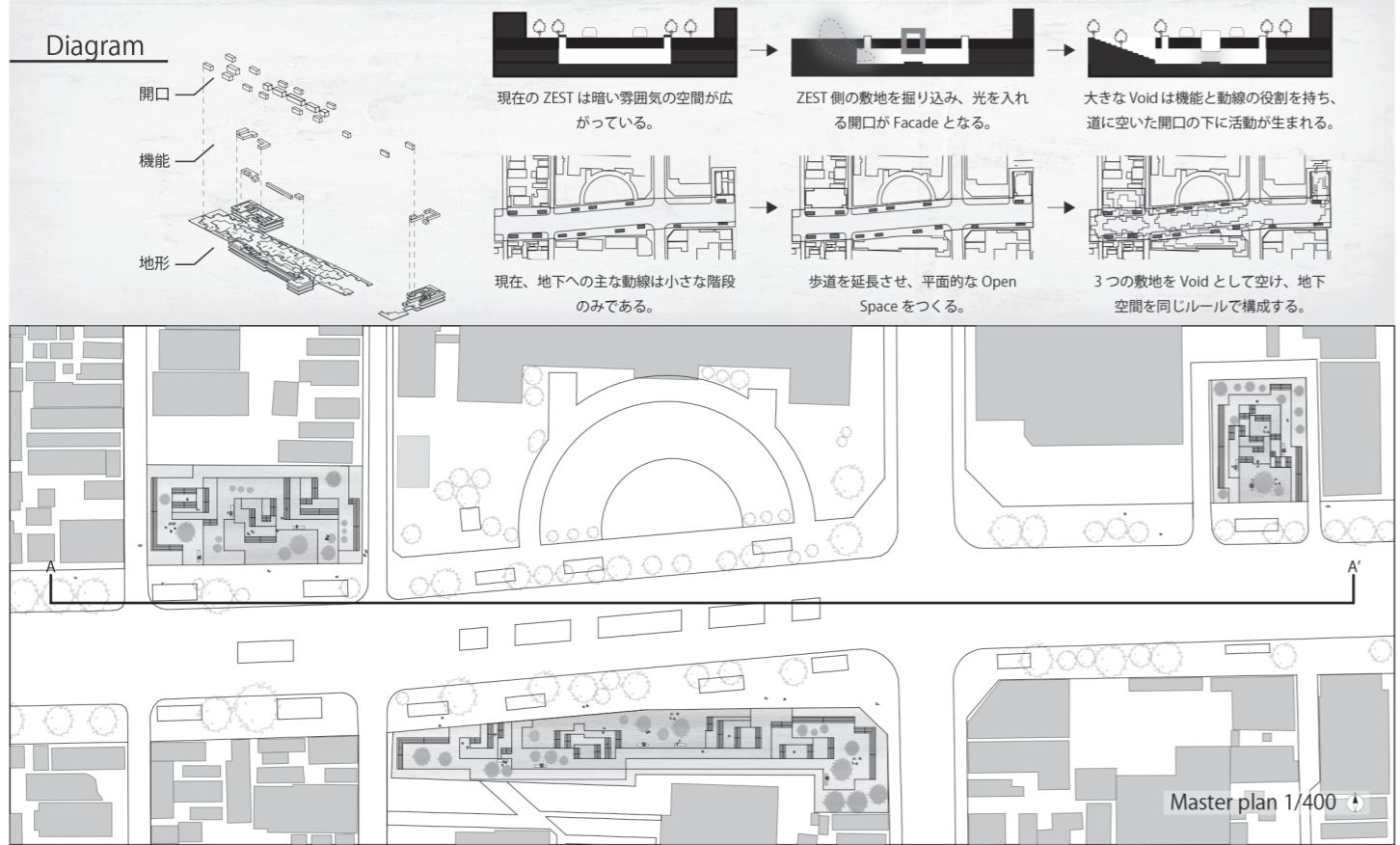
敷地周辺の河原町、御池通りは京都市役所など京都の中心となる機能が集中しており、さまざまな人々が集まるが、気軽に集まることができる、仕事場でも自宅でもない、「たまり場」のような空間がない。

Concept



御池通りに人々が溜まる Open Space を生み出す。
人々はこの空間を歩道の延長と認識する。
この Open Space は地下空間への誘導を促す Void の役割も併せ持つ。
3つの敷地に空けられた大きな穴は通り抜ける風、地下へ入る光、人の動線を演出する。

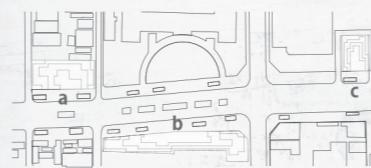
Diagram



Site



Program



On the ground

地上の Void は観光センターなどの機能と併せて、風の通り道、光の入り口にもなる。



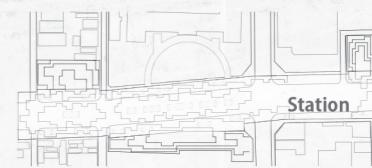
a. 京都の伝統産業を体験することができる空間。



b. 観光客が集まる拠点。観光情報コーナーや多目的スペース、カフェなど。



c. 京都についてや、伝統工芸品の展示などが行われる。



Under the ground

地下に広がる空間は今までの暗い雰囲気の空間から、光が落ち、風が通る、緑の多い空間となる。



天候に左右されないでさまざまなイベントなどが行われる。



ローカルビジネスやステータブルビジネスなど、新しいアカティビティが生まれる。



市民や観光客の憩いの場になる。

